「静岡大学 イノベーション社会連携推進機構」発足

社会全体に対する“革新の担い手”を目指す

静岡大学浜松キャンパス内のイノベーション社会連携推進機構

静岡大学は今年4月、新組織「イノベーション社会連携推進機構」を発足した。同機構は産学連携を担ってきたイノベーション共同研究センター、知的財産本部、地域連携を担ってきた生涯学習教育研究センター、地域連携協働センターを統合し、設立したもので、地域の“知の拠点”としての機能強化を図っている。そこで、同機構長の柳澤正同大理事（社会・産学連携担当）／副学長に、設立の狙いや今後のプロジェクトなどについて聞いた。

組織統合でより効率的な運営

地域の〝知の拠点〟としての機能を強化

静岡大学　理事（社会・産学連携担当）／副学長
イノベーション社会連携推進機構　機構長
柳澤　正 氏

情報やノウハウの共有化推進

―まず、組織の統合の狙いについて教えてください。

「これまでは浜松市に産学連携、知的財産の拠点、静岡市に地域連携と生涯学習の拠点を置いていました。それぞれ活動をしてきましたが、さまざまな要望に応える十分な体制とは言えない状況になってきたということが背景にあります。例えば、地域連携の部門に産学連携的な要望、動きが出始めるなど、産学連携・知的財産、地域連携・生涯学習を分けて活動することが難しくなったということがあります。そこで、全体として新しい組織でスタートし、効率的な運営を行う必要があったため統合しました」

―新組織名に「イノベーション社会連携」と冠していますが、その意味はなんでしょうか。

「〝社会全体に対する革新〟の担い手となるという狙いがあります。テレビが登場したとき、製品や技術の普及が人々の生活を大きく変化させるということがありました。このような革新を起こしたいと思っています。例えば、本学の人文社会科学、農学のノウハウを生かし、ITと農業を結び付けて農作物の流通システムの改革といった事例も考えられるでしょう。当機構に設置した各部門がプレーヤーとなって、さまざまな事案に取り組んでいきます」

―各部門の役割を教えてください。

「戦略企画室、研究推進支援部門、研究活用支援部門、地域連携生涯学習部門の1室3部門体制としています。戦略企画室は地域ニーズに基づく社会連携全体の在り方と方針の検討、研究力の分析と把握、知財戦略の検討、社会連携活動の成果指標の整備といった総合的な戦略策定機能を持っています。研究推進支援部門では基礎および応用研究支援、基礎研究段階からの知財戦略立案、事業化戦略に基づくシーズの育成、知財の保護・管理などの役割を担っています」

「研究活用支援部門は民間企業などとの技術相談・共同研究の企画、技術移転活動の推進、大学発ベンチャーの起業・育成支援、研究成果の実用化支援といった活動を展開しています。地域連携生涯学習部門では地域連携事業や地域・社会活性化の企画、公開講座・大学開放事業の実施などを担当しています」

―発足から約8カ月が経過しましたが、状況はいかがですか。

「職員の配置を適正化し、狙い通り、浜松と静岡の間で今までよりもスムーズな連携が図れるようになりました。人材の交流が増え、情報やノウハウの共有化がうまく進み、両方の良い部分が伸びています」

コーディネーター育成に尽力

―例えば、産学連携で有望な研究テーマがあるとしたら、どのように支援していきますか。

「研究が入り口だとしたら、事業化が出口となりますね。入り口から出口までワンストップで支援していきます。事業化までを念頭に置き、研究のやりっ放しにならないようにどう進めていくか。分かりやすく言えば、〝寄ってたかって〟きめ細かく各コーディネーターがサポートしていきます。その中では当然、知財戦略なども必要になってきますので、そのあたりもしっかりとした対策をできる体制を整えています」

―コーディネーターの確保、育成も重要になってきますね。

「全国的に見て、コーディネーターとなれる人材は決して多くはありません。各大学でコーディネーターの取り合いとなっている状況もあります。そうした中、いかに本学に来ていただけるか。当大学での仕事についてやりがいを持ってもらえることが大切で、その環境も整えていきます。また、研究プロジェクトの立ち上げから事業化までを一括管理できるコーディネーターの育成にも取り組んでいきます」

―今後の取り組みで特徴的なものはありますか。

「12月12日から14日までの3日間、浜松市中区のアクトシティ浜松で『AUTM Professional Development Session』を開催します。AUTM（Association of University Technology Managers）とは大学と企業の技術移転に関する専門家の協会で、米国では盛んに活動しています。今回、日本で初めてとなるAUTMのイベントを本学とAUTM主催で開きます」

―どんな内容になるのでしょうか。

「専門家の講師による特許出願の基本からマーケティング、交渉、ライセンシング、事業化などの応用にいたる専門人材育成セミナーです。技術移転、産学連携業務に携わる人を対象に、AUTMの実践的なトレーニングセッションを開催します。アジア地域の産学連携機能の向上を図るとともに、参加者相互のネットワークの強化、ひいては国際的な連携の構築にもつなげることを目的とします」

テラヘルツ波の研究開発を促進

―地域プロジェクトではいかがでしょうか。

「『浜松・東三河ライフフォトニクスイノベーション』という浜松・東三河地域の16機関によるプロジェクトがあり、本学も参画しています。（公財）浜松地域イノベーション推進機構が中心となって展開していますが、光・電子技術（フォトニクス）を用いて医療・健康関連産業（ライフ）の技術革新を起こすことが主な目標です。その中で、本学はテラヘルツ波の研究開発を促進しています。テラヘルツ波とは光と電波の中間領域に属する超高周波域の電磁波で、物質の分子構造解析などに使えます。医療や創薬に利用可能な技術、装置の開発を目指しています。そのため、テラヘルツ波の専門家を2人招聘し、万全の体制を整えています」

―地域の若者、市民向けの活動も活発にされていますよね。

「市民に科学技術への理解を深めてもらう『浜松RAIN房』、地域をあげて子供教育をする生物・自然科学系の『浜松ダビンチキッズプロジェクト』、モノづくり系の『ものづくりダビンチキッズプロジェクト』などの各講座を関係機関、企業の協力のもと、展開しています。学内においても一昨年、浜松キャンパスの工学部に、『次世代ものづくり人材育成センター』を設立し、地域と連携して次世代のモノづくりを支える人材の育成に努めています」

―最後に今後の抱負をお聞かせください。

「本学、イノベーション社会連携推進機構で育った人材、研究テーマ、技術などが全国、世界に広まっていき、各地で革新を起こしてほしいです。その結果、『静岡大学に行けば何かある』と評判を呼び、人や企業が集まるようになれば良いですね。そのような魅力にあふれた大学、組織にしていきたいと思います」

「産学連携」「地域連携」機能の統合による新機構

目的　静岡大学の培ってきた「産学連携」と「地域連携」の機能を統合することにより、地域の「知」の拠点として地域イノベーション創出に寄与し、より一層の社会貢献を果たすとともに研究・教育力を向上し、静大ブランドを向上させる。

旧組織体系

○イノベーション共同研究センター
・本学におけるシーズ及び地域企業等のニーズ発掘及びコーディネート
・シーズとニーズのマッチングに資するイベント等の実施
・大学発ベンチャー創出・育成経営の支援等
・産学官連携大規模プロジェクト研究の支援　等

○知的財産本部
・知的財産戦略の企画・立案、特許等出願・登録・管理、知的財産の公開・活用、及び各種イベント等の企画・立案、並びに知的財産の法的環境整備
・地元自治体、他大学等との有機的な連携に関する企画・立案
・産学官連携に関するアウトリーチ活動　等

○生涯学習教育研究センター
・公開講座、市民解放授業、各種講演会等の企画・運営
・自治体との連携協力、生涯学習・大学解放に関する情報提供、相談受付、指導、調査　等

○地域連携協働センター
・学内外からの社会・地域連携に関する相談受付、学外と学内諸組織との調整・コーディネート、学内外への情報発信　等

イノベーション社会連携推進機構

新機構に統合

○研究支援の強化
→研究の上流から下流までの一貫した研究支援

○シームレスな社会貢献
→地域連携と産学連携の機能の統合による社会貢献活動の強化と多様化

○産学・地域連携活動の教育・研究への波及効果
→産学連携、地域連携などの社会貢献活動により学内の研究・教育能力の向上を推進する

○OJTによる社会貢献人材の育成
→社会から求められる優れた人材の教育が可能となるとともに、地域の要請に幅広く対応

○企画・広報機能の強化とブランド力の強化
→情報収集ならびに分析機能強化により静岡大学のブランド力を向上させる

強化ポイント（研究支援）

■リサーチ・アドミニストレーション（URA）体制の構築による研究支援の強化
■卓越研究者、若手重点研究者（H23選定）、バーチャル研究所の重点支援とブランド化
■基礎研究の段階から出口を見据えた研究支援（知財、産学連携へのシームレスな支援）
■産学連携活動による研究力の向上

AUTM Association of University Technology Managers® Advancing Discoveries for a Better World®

AUTM Professional Development Session in Hamamatsu
— 専門人材育成コース —
平成24年 12月12日(水)～14日(金)
12日 13:00～18:45　19:00～情報交換会
13日 9:30～17:15
14日 9:30～17:15

First AUTM Event in Japan！
専門家講師による特許出願の基本からマーケティング、ネゴシエーション、ライセンシング、事業化などの応用に至る専門人材育成セミナーを開催します。新しいステージに入ったと言われる技術移転・産学連携業務に従事する皆様の個々のスキルアップに繋げていただくとともにネットワーキングの場としてもご活用下さい。産業界、産業支援機関、知財業務に係わる皆様のご参加も歓迎致します。
（尚、セミナーは英語で行われますが、同時通訳システムがございます）

参加費　専用サイトからお申込みください
http://autm-hamamatsu.jp
早期申込　～11/30(金)　30,000円 3日間［15,000円/1日・30,000円/2日間］
通常申込　12/1(土)～12/11(火)　35,000円 3日間［17,500円/1日・35,000円/2日間］
当日　12/12(水)以降　40,000円 3日間［20,000円/1日・40,000円/2日間］
※当日は会場受付にて現金での申し込みとなります。
※すべて税込みの金額となります。
※プログラム内容は一部変更する場合があります。

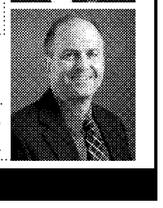
会場：アクトシティ浜松 コングレスセンター 31会議室
静岡県浜松市中区板屋町111-1 TEL:053-451-1111
問合せ：AUTM浜松事務局 E-mail:innova@cjr.shizuoka.ac.jp
TEL:053-478-1419（藤井・宮下）

講演者・講師 Profile

基調講演
Sean P. Flanigan BA, LLB, RTTP
（ショーン・フラニガン氏）
オタワ大学 技術移転・事業開発オフィス アシスタントディレクター
2013年度（次期）AUTM代表

Richard S. Cahoon Ph.D.
（リチャード・カフーン氏）
BioProperty Strategy Group, Inc. 取締役社長
コーネル大学非常勤教授 ニューハンプシャー大学非常勤教授

パネルディスカッション 他
Dipanjan Nag, Ph.D., MBA, CLP
（ディパンジャン・ナグ氏）
IPShakti LLC CEO兼取締役社長
AUTM VICEPRESIDENT FOR PROFESSIONAL DEVEROPMENT


Jay W. Schrankler, Ph.D.
（ジェイ・シュランクラー氏）
ミネソタ州立大学 技術移転オフィス エクゼクティブ・ディレクター

主催：AUTM・静岡大学　協賛：浜松信用金庫・ヤマハ発動機株式会社・静岡大学産学連携協力会

SUZUKI

SUZUKI GREEN Technology
小さなクルマ、大きな未来。

新型ワゴンR(CVT車)の低燃費を実現した4つの新技術。
・減速するだけで発電し、クルマに電力を供給する「エネチャージ」
・時速13Km以下でエンジンを停止「新アイドリングストップシステム」
・エンジンが止まっても、心地よさは止まらない「エコクール」
・進化した新軽量衝撃吸収ボディ「テクト」

メーカー希望小売価格
FX 2WD CVT 1,109,850円★［消費税抜き 1,057,000円］
4WD車は1,227,450円★(消費税込み)

●パールホワイト塗装車は21,000円高（消費税込み）★リサイクル料金が別途必要となります。メーカー希望小売価格はタイヤパンク応急修理セット・ジャッキ付で、保険料・税金（除く消費税）・届出等に伴う費用および付属品価格は含みません。メーカー希望小売価格は参考価格です。価格は販売会社が独自に定めていますので、詳しくは各販売会社にお問い合わせください。

※1 軽ワゴン＝全高1,550mm以上の軽自動車。JC08モード走行燃費（国土交通省審査値）に基づく。2012年9月現在。スズキ調べ。※2 燃料消費率は定められた試験条件での値です。お客様の使用環境（気象、渋滞等）や運転方法（急発進、エアコン使用等）に応じて燃料消費率は異なります。エコカー減税について詳しくは販売会社にお問い合わせください。

新型ワゴンRスペシャルサイトはこちら
www.suzuki.co.jp/wagonr/
お近くの SUZUKI 看板のお店へ